

# 回復期的急性期と分類される病棟の実態調査結果

## 【調査概要】

### ○調査対象

平成30年度病床機能報告で「急性期」と報告された病棟のうち、本県の定量的な基準によって回復期的急性期と分類される病棟を有する医療機関

60医療機関（68病棟、2,126床）

### ○調査期間

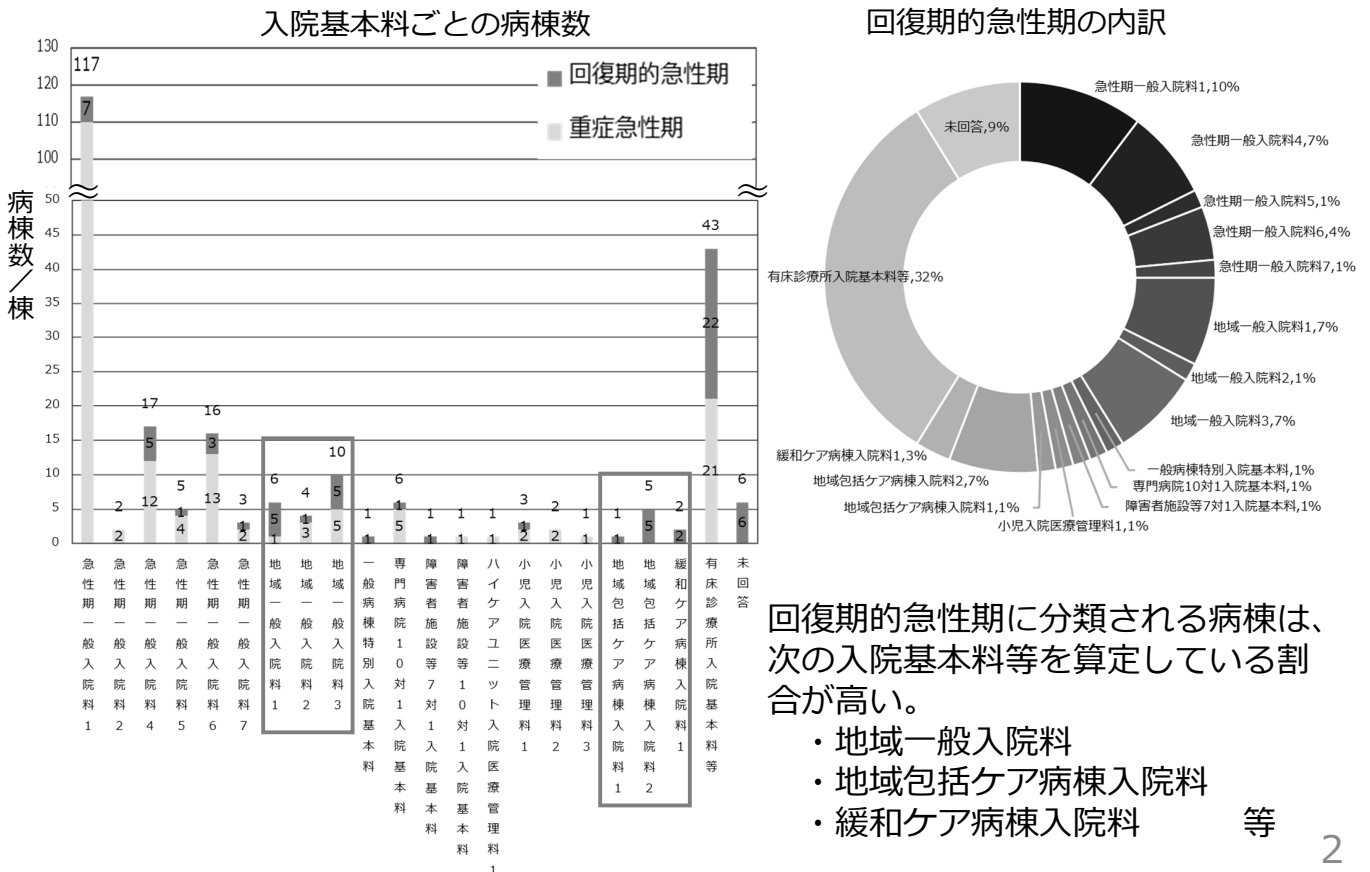
令和2年6月4日～6月25日

### ○回収率

90%(61病棟／68病棟)

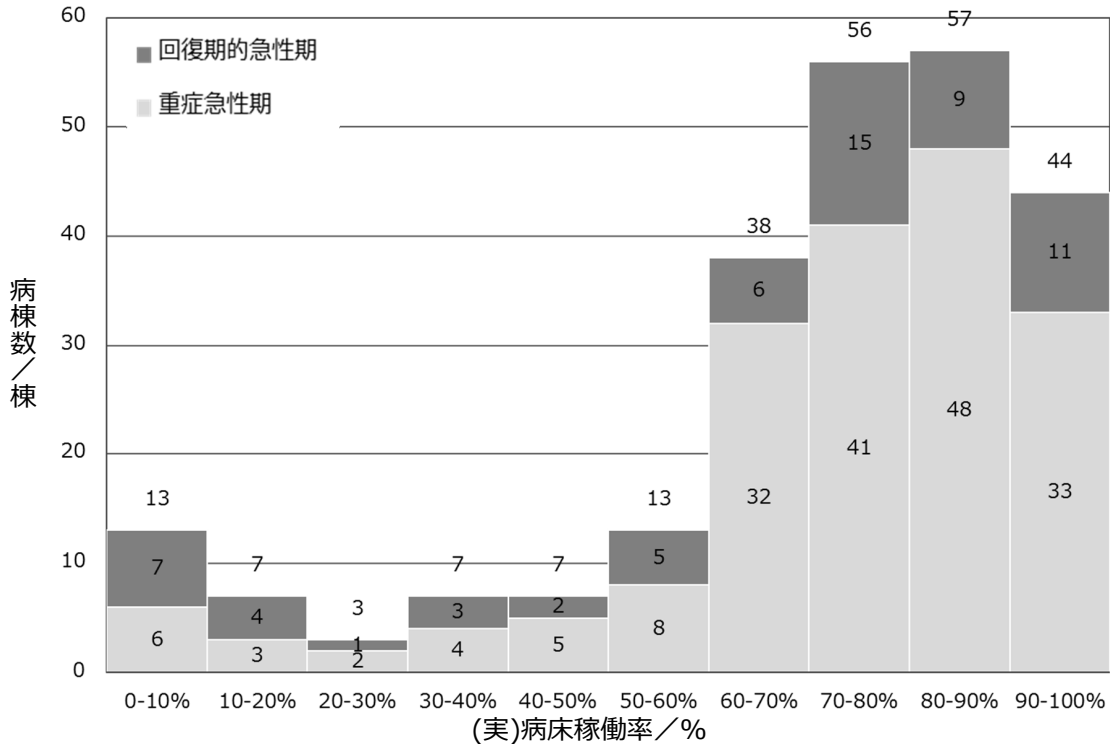
## 平成30年度病床機能報告の分析結果①

### 【急性期と報告のあった病棟において届出されている入院基本料等】



## 平成30年度病床機能報告の分析結果②

### 【急性期と報告のあった病棟の(実)病床稼働率】



※(実)病床稼働率 = 在棟延べ患者数 / (稼働病床数 × 365日)  
 ※報告ミス等により明らかにおかしい値は削除している。

回復期的急性期に分類される病棟の(実)病床稼働率は様々である。

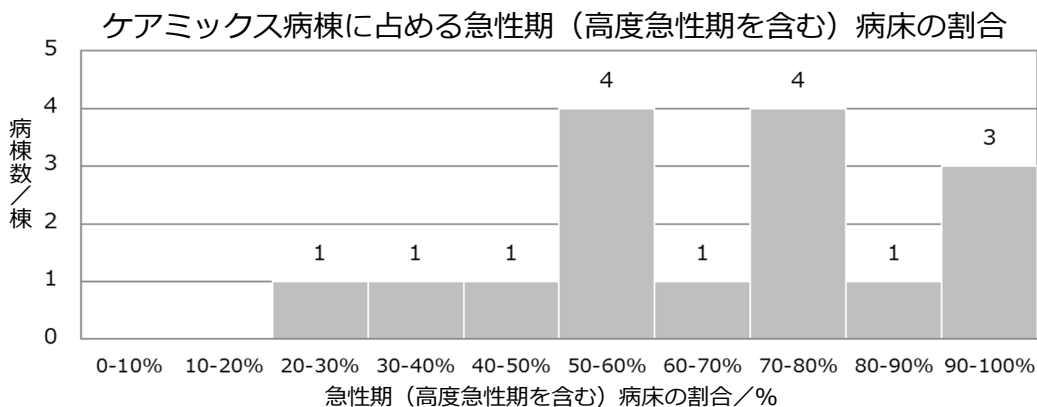
3

## 実態調査結果①-1

【問 1】平成30年度病床機能報告において、医療機能を“急性期”と選択した理由は何か。（複数回答可）

選択肢	回答数（複数回答含む）
急性期の割合が高いケアミックスだから	16 (28%)
特殊な患者（障害者、小児、妊婦）を受けているから	15 (26%)
人間ドックに使用しているから	2 (3%)
その他	31 (53%)
計（回答病棟数）	58病棟

※（ ）内は、回答した病棟の割合。



4

## 実態調査結果①-2

### 医療機能を“急性期”と選択した理由のうち、その他の理由

急性期医療を提供

- ・スポーツ障害に対しての手術療法と術後の早期リハビリテーションを目的とした患者の割合が高い。(病棟再開後3カ月での報告なので手術数も本格稼働前の値)
- ・外傷の手術・リハビリを行っている
- ・日帰り手術の術前術後管理、妊娠悪阻や体調不良の点滴管理等に使用している為
- ・手術総数を年397回算定しているから(算定結果 1.11)
- ・急性期の患者に対し状態の早期安定化に向けて医療を提供することができるから
- ・白内障手術の周術期に病床を使用しているから
- ・透析患者の急変対応としてICUを確保している
- ・前立腺肥大症の外科的治療等遂行の為の入院
- ・調査該当月のみ基準を満たさず年間では達している
- ・めまい、腰痛症、脱水症等の急性期の患者を受けているから
- ・高血糖のケトン血症の人のインスリン強化療法や血糖コントロール入院  
糖尿病シックデイの感染症と血糖コントロール
- ・老健施設が併設の診療所で、回復期に近いと思われるが、急性期の患者を受け入れる姿勢であるため
- ・平均在院日数が急性期病棟(DPC病棟)より短いため
- ・年間200件以上の緊急入院患者がいたため
- ・急性期・慢性期・回復期・認知症を受け入れている
- ・該当病棟は外科・整形外科の急性期病棟として運用しており、算定結果は要件を満たしている
- ・全身管理を必要とする患者を受入れているから(中心静脈注射:年3093回算定、  
ドレーン法:年466回算定、呼吸心拍監視:年1987回算定)

5

## 実態調査結果①-3

続き

### 医療機能を“急性期”と選択した理由のうち、その他の理由

急性期医療を提供

- ・認知症疾患医療センターとして重度の認知症患者を受け入れる可能性があるため
- ・急性期に関する入院基本料の届出を行っており、施設基準を満たしているから。
- ・整形外科(手術適応)患者及び脳梗塞患者の受入をしている
- ・がん患者に対する手術等の医療行為を行う病棟であるため

他医療を提供

- ・該当病棟は、平成31年4月から令和元年10月まで病棟改修を行っていたため
- ・認知症ケア加算を年6939回算定しているから(H30.6算定開始～H31.3)
- ・慢性期を選択するべきでした
- ・ペースメーカー交換時のみ入院治療をしているから
- ・今後人間ドックに利用の予定をしているため
- ・地域包括ケア病棟入院料変更前は急性期病棟であったため
- ・病床機能報告の調査時点では急性期病棟だが、H30.8.1～地域包括ケア病棟に変更している。  
変更のための実績づくりのため、病棟の用途変更前から、地域包括ケア病棟の診療内容で運用を行っていたもの
- ・病床機能として、回復期病棟や療養型病床を有していないから
- ・がん患者を対象とした緩和ケア病棟であり、必要に応じて医療を提供しているため
- ・入院患者がいないので

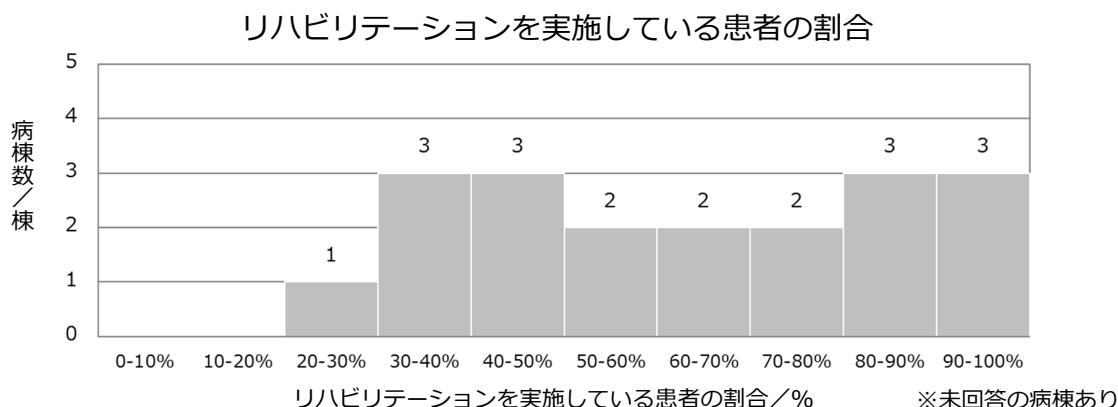
6

## 実態調査結果②-1

【問2】“回復期”に近い医療機能を有している場合、どのような機能があるか。（複数選択可）

選択肢	回答数（複数回答含む）
リハビリテーションを行っている	22 (50%)
ポストアキュートの患者を受け入れている	20 (45%)
サブアキュートの患者を受け入れている	19 (43%)
その他	13 (30%)
計（回答病棟数）	44病棟

※（ ）内は、回答した病棟の割合。



7

## 実態調査結果②-2

“回復期”に近い医療機能として、その他を選択した場合の詳細

- ・分娩後の入院
- ・急性期を経過した患者への在宅復帰に向けた医療の提供（又は介護施設への受け渡し）
- ・ICUから一般病棟・回復期病棟へ可能なら介護施設へ紹介
- ・糖尿病食事指導など
- ・ペースメーカー交換時のみ入院治療をしている
- ・今後人間ドックに利用の予定をしているため
- ・回復期に近い医療機能を有しているわけではないが、当院は高齢者の入院患者が多いこともあり在院日数が長くなっている。
- ・H30.8.1～地域包括ケア病棟として運用している。
- ・多職種で連携し、高齢者福祉、介護保険制度に通じている
- ・時期的な要因による
- ・入院患者がいないので

8

## 実態調査結果③

【問 3】病床稼働率((実)病床稼働率)が80%以下の場合、その理由は何か。(複数回答可)

選択肢	回答数 (複数回答含む)
需要 (患者) がないため	22 (50%)
医師・看護師等医療従事者が不足しているため	14 (32%)
その他	14 (32%)
計 (回答病棟数)	44病棟

※ ( ) 内は、回答した病棟の割合。

病床稼働率が80%以下の理由のうち、その他の理由 (一部)

- ・地域包括ケア病床において対象患者の選定に苦慮したため。結核疑い、インフルエンザ (疑い)、MRSA・緑膿菌等気道や尿路保菌患者対応のための個室確保や病室区別のため
- ・外来通院患者の中で外科的治療が必要な症例を厳選して手術を行っている為
- ・院内の運用を変更した時期と重なり、稼働率が低かったが一時的な要因によるため
- ・食事提供の日帰り外来でベッド使用するも入院扱いではない
- ・人間ドックに使用しており、入院料等の届出を行っていないため
- ・地域のニーズに応じた病床機能への対応が遅れているため
- ・今後人間ドックに利用の予定をしているため
- ・病棟移設等の移行期であり、稼働病床が少なかったため

9

## 実態調査結果④

【問 4】分析する期間を1年間(平成30年4月1日～平成31年3月31日)とした場合、診療実績はどうなるか。

基準	満たしている病棟数
手術 総数 (1以上)	7 (12%)
病理組織標本作製 回数 (1以上)	0 (-)
化学療法 算定日数 (1以上)	0 (-)
救急医療管理加算 1 及び 2 レセプト件数 (1以上)	2 (3%)
呼吸心拍監視(3時間を超え,7日以内) 回数 (2以上)	8 (14%)
計	17 (29%)

※ ( ) 内は、基準を満たしている病棟の割合。対象：58病棟。

分析期間を1年間とすることで、本県の定量的な基準を満たし、回復期的急性期病棟を脱する病棟が、29% (560床) 増加する。

国では、令和3年度の病床機能報告から対象期間を通年化することを念頭に、必要な予算の確保、審査支払機関との調整等の対応を進めている。

10

【問 5】令和元年度病床機能報告において、どの医療機能を選択したのか。

病棟の医療機能	満たしている病棟数
高度急性期	0 (-)
急性期	46 (75%)
回復期	7 (11%)
慢性期	1 (2%)
未回答	7 (-)
計	61

※ ( ) 内は、回答した病棟の割合。

急性期を選択した理由 (一部)

- ・届けている急性期の入院基本料に見合った従事者数及び医療提供体制を確保しているため
- ・一部を地域包括ケア病床へ変更しケアミックスとしたため
- ・定量的な基準による分析を行ったところ、年間では一部の要件を満たしていたから
- ・透析患者の急変に対して人工呼吸器等を完備
- ・病床機能報告では、分娩を扱っている施設は急性期と分類するとされているため
- ・ペースメーカー交換症例がある時のみの入院となるから

## まとめ

### ●平成30年度病床機能報告の分析結果

- ・回復期的急性期に分類される病棟は、地域一般入院料、地域包括ケア病棟入院料、緩和ケア病棟入院料を届け出ていることが多く、一方で(実)病床稼働率は様々である。

### ●回復期的急性期と分類される病棟の実態調査

- ・急性期の主な選択理由：急性期医療の提供体制を維持しているため  
：主に急性期のケアミックスであるため
- ・回復期に近い主な機能：リハビリテーションの実施(20～90%台)  
：ポストアキュート・サブアキュート患者受入れ
- ・病床稼働率が低い理由：需要(患者)がないから
- ・分析期間を1年間にすることで回復期的急性期病棟を脱する病棟が、29%(560床)増加する。⇒国は期間を通年化するよう検討中。
- ・令和元年度報告でも、70%以上の病棟が急性期を選択している。

回復期的急性期と分類される病棟の多くは、急性期医療を維持しつつも、対象患者が少ない状態であることから、他医療機関との分化・連携を踏まえた上で、機能転換等を検討する必要があるのではないか。